

P2M 新研究会の設置 (発足と趣旨等)

国際 P2M 学会副会長 亀山秀雄

今までの経緯¹⁾

本学会は、複雑化する社会のニーズに対応するために、2008年に山本秀男副会長を中心に吉田、小原、亀山、綿木の5名からなる作業部会を発足させ、今までマネジメントの実行領域に限定してきた P2MVersion1.0 に、オーナーの視点を明確にし、全社戦略と実行領域の相互関係と事業価値評価設計の枠組みを導入した新しい P2M の枠組みを検討した。その成果は、新しい P2MVersion2.0 として結実し、2009年の春季大会で発表し、理事会として承認された。その内容は、吉田・山本編著「実践プログラムマネジメント」日刊工業新聞社刊(2014.3)として一般公開された。現在、本学会は、この P2MVersion2.0 に基づいた活動を続けて、2015年に10周年を迎えた。

新研究会設置の趣旨

P2MVersion2.0 の策定から8年が経過する中で、国内外の社会情勢も大きく変化し、事業価値評価も益々多様化して行き、外部環境の変化に柔軟に対応してプロジェクトを遂行することが求められてきた。全体目的を遂行するために明確な役割分担の目的を持った各プロジェクトは、自立的に環境の変化に柔軟に対応し、その情報を他のプロジェクトに伝えて、他のプロジェクトもその情報をもとに、迅速に変化に対応して、全体を統合するプログラムがその目標を達成できるように、自律分散的制御をする生体組織システムに類似したマネジメントが求められるようになってきた。わが国の科学技術基本計画も2001年の第3期から15年が経過し、2016年の第5期へと内容が大きく変化し Society5.0 として新しい社会に対応したイノベーションの推進を行うことを目指している。そこでは、①複雑化する社会課題の解決と、その先の未来創造を見据える、②デジタル化を通じた産業競争力強化と国民生活向上、③民間のみでは実現せず、官民、企業間の協調が必要、④研究開発にとどまらず社会に組み込めるまでを視野に入れる、⑤新しい社会の基礎となる、という5つの視点で取り組むことが求められている。

さらに、学会の国際化(特に日本型 P2M の学習ニーズが高いアジア展開と人的ネットワーク作り)の視点を加えて、かつて創立10周年を前にして P2MVersion2.0 をまとめたように、2020年に創立15周年を迎える本学会として、新たな社会ニーズに対応するように P2M を進化させるための作業部会「P2M の新たな可能性を研究する会」の設置を2017年10月の理事会で提案し承認された。

研究会の内容

大学や産業界からの学会員10名前後で構成し、来年の春季大会で成果報告を行うことを目標に新しい価値の探索から始まり、それを実現するためのマネジメントの在り方を、それぞれが担当している分野で検討した内容を報告し、議論を重ねて、現在の P2M を修正する必要がある枠組みを見出していく。1回目は、吉田邦夫名誉会長が来春発表する「激変する技術開発環境と求められる P2M の対応」の構想をお聞きした後に議論を行い、参加者の共通認識を得ることにした。11月14日に新宿のユニシス会議室で開催された会議には、WEB参加者3名を加えて11名が出席した。今後は、各委員が新しい P2M のあるべき姿を発表し、議論を行うことにし、12月27日の2回目では、和田氏、白井氏、が企業目線から、佐藤先生が最近世界で注目されているアジャイルの視点から P2M についての在り方を発表する。参加予定者は、13名である。3月までに、5回程度の会合を行い、その成果を新しい枠組みとしてまとめて中間報告書を3月末に作成する。この間、極力、若い会員の意見を取り入れる努力をする。来年の春季大会では、午前中に研究発表し、午後に年会の統一テーマに合わせて研究会の成果を踏まえた討論会を設け、研究会委員以外の会員からの意見を聴衆して、5月の最終報告書に反映させる。

引用資料

1) 国際 P2M 学会「P2M Version 2.0 コンセプト基本指針」、
<http://www.iap2m.org/pdf/p2mconcept200906.pdf>, 2009